

不機嫌な時代に、彼らはなぜ笑うのか？

わ
ら
う

百
姓



ドキュメンタリー映画『百姓、わらう。』

監督・柴田昌平

製作・著作・配給：プロダクション・エイシア
2026年・138分・DCP・ブルーレイ

映画『百姓、わらう。』は、
私たちの「毎日ごはん」の向こう側で生きる
全国の若い農家たちを4年にわたって見つめた
ドキュメンタリーです。

不機嫌な時代に、
彼らはなぜ笑うのか？

百

女生

最新統計によると、49歳以下の百姓は日本の人口のわずか0.1%。

「僕ら、絶滅危惧種なんで」と当の本人たちが明るく自称するように、それはまさに、
自然を前に観察と創意工夫を重ねる「最後の『野生の知恵』を持つ人たち」を訪ねる旅でもありました。
巨大なシステムの矛盾を前に、すべての喜怒哀楽を飲み込んで、彼らは心の底から豊かに「わらう」。

『千年の一滴 だししょうゆ』『百姓の百の声』の柴田昌平監督が
生産現場の圧倒的な生命力と、消費社会の無知という
「深い断絶」にカメラで迫り、
再生へのタネを見つける待望の新作。

日本の全人口のわずか0.1% “絶滅危惧種” が示す、この国の「食」の未来

人がいま求めるべきは、豊かさよりも「健やかさ」ではないか。彼らの年収「400万円」を金額だけで計ることはできない。

君島佐和子（『料理通信』元編集長・フードジャーナリスト）

子どもたちは畑や自然に惹かれていく。それはDNAに刻まれた本能なのでしょう。「食べるとつくる」をもっと近くへ。食は、幸せを生み出す起点になるはずだ。

松本恭子（栄養教諭・管理栄養士）

「稼げる農業になれば担い手が増える」。これまで正論と思っていたことに、すっぱり抜け落ちていたのは「農業の喜び」でした。

曽根清子（『料理通信』編集長）

ヤバいものを観た。嬉しいやら、先越されて悔しいやら！消費者に実相を伝えるには「百姓国」の言語は難しすぎ。この映画は、その翻訳を「わらい」というポジティブな形でスカッとやってくれた。

渡邊健紀（『現代農業』編集部）

監督：柴田 昌平

プロデューサー：大兼久由美・下地盛栄・下地恵美子

出演：全国の49歳以下の百姓たち 音楽：Maico アニメーション：今井加奈子

監修：百合田敬依子・榊田みどり・君島佐和子

メインビジュアル・原画：三田圭介 題字：財前謙 アートディレクション：西山里佳
製作・著作・配給：プロダクション・エイシア（農と市民をつなぐ会）

2026年 | 日本 | 138分 | カラー | DCP・ブルーレイ | ドキュメンタリー

公式 SNS

✕ @100_shou f @100sho.info @shibata_asia

問い合わせ先 プロダクション・エイシア

TEL: 042-497-6975 / Mail: info@asia-documentary.com

公式サイト <https://www.100sho.info/>



2026年 9月26日 王公開!!

ポレポレ東中野

舞台挨拶ほか最新情報は、ポレポレ東中野HPにてご確認ください。

03-3371-0088 pole2.co.jp

当日料金（税込） 一般：2,000円／大・専・シニア60：1,400円／シニア75：1,200円／高中生・障：1,000円

JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分 野←
都営大江戸線A1出口より徒歩1分

山手通り

ミスタードーナツ

ポレポレ東中野

UFJ

西口

JR 東中野駅

東口

大江戸線 東中野駅 A1 出口

新宿